

石狩川の水で、おい

北海道有数の稲作地帯、篠津地域は、明治のころは排水不良で、先人たちの開拓の手を拒んだ泥炭の原野でした。

戦後、昭和30年から世界銀行の融資を受け、国の「篠津地域泥炭地開発事業」として本格的な整備が進められ、見違えるような水田地帯になりました。それを支えたのが、石狩川頭首工や篠津運河です。



ポンプ船による篠津運河の掘削

掘削した泥は送泥ポンプで散布し、客土としました。前例のない新しい工法でしたが、最も経済的で、多くの課題を解決して実施されました。

目次：現頭首工の管理橋から撤去工事中の旧頭首工（奥の赤いゲート）を臨む

裏表紙：適切な管理により安定的に水需要が満たされ、豊かな水田が広がっている

* 2015年12月号「篠津地域農業体験学習」も併せてご覧ください

しいお米

～石狩川頭首工



札幌開発建設部札幌北農業事務所
篠津地域農業施設管理支所

支所長 大西 真言 様

道産米はおいしいですね。泥炭地でおいしいお米を作るのは、先人にとっては夢のまた夢でした。

石狩川頭首工は、石狩川の水位を一定に保ちながら地域の水田7,460haに必要な水を取水し、篠津運河から農業用水路に引き入れています。用水路の頭首(上流端、起点部)にあるので、「頭首工」と呼ばれます。

泥炭地に造られた篠津運河の法面が崩れるのを防ぐため、冬期も含め通年で取水し、運河に水を流しています。魚道を設けて魚類の生息環境の確保にも取り組んでいますよ。

また、新しい頭首工は全面可動堰かどうせきになったので、取水だけでなく、大雨で増水した石狩川の水を安全に流す操作もしています。職員一同身の引き締まる思いで仕事をしています。

昭和38年に建設された旧頭首工の老朽化に伴い、この頭首工を建設しています。すべての事業が完了すると、管理橋も広域農道として一般開放され、岩見沢市と月形町を結びます。公共施設見学ツアーで是非おいでください。